

図書館通信 — 45 —

1978. 9. 6

生きものとしての図書館 —インタビュー—

上 杉 忍

上杉：最近こんなことがありました。ある学生が自分の卒業論文に関係のある論文が掲載されている『人文論集』をやっとのことで県立図書館で見つけたというのです。静大の図書館では見つけられなかった訳です。

図書：そうですか。それは極めてショッキングな話ですね、僕らにしてみれば。

上杉：静大の人文学部が発行している雑誌ですから図書館にない筈はないんですが、彼は捜し出せなかった。これはただ「非常識」だではすまない問題だと思います。静大の図書館は少なくとも高校の図書館と比べればかなり複雑で規模も大きい訳ですが、けっして彼一人だけでなしに多くの学生にとっても、この図書館の仕組みを理解するのはそう簡単ではない訳です。本来、学生ならば自分で労苦して図書館員から援助を受けて、この仕組みを会得することが出来るはずですが、現実には図書館を勉強部屋ぐらいにしか利用しない学生が多いのではないのでしょうか。例えばこの学生の場合、図書館に雑誌目録があるのを知らなかった訳です。開架図書の雑誌を捜したに違いありませんが、そこになかったのであきらめてしまった。何故、そこでもうひと粘りして図書館員に聞かなかったのか。そうすればすべてが解決するのですから。

図書：僕らにしてみれば目録はあって当然。あれば必ず使うものだと思います。あれは必ず使うものだと思います。

上杉：学生諸君は、是非恥ずかしがらずに図書館員にどんどん尋ねてもらいたいですね。館員の方々もそれを望んでおられると思います。

図書：そのとおりです。

上杉：一つ図書館にお願いがあるのですが。いろいろ技術上の困難もおありだと思うのですが、学生の図書館利用を促進する意味で、是非学生の書庫への立入りを認めてやってほしいと思います。書庫でたくさん並んでいる本を現実の手にとって「こんな本があったのか。」と感動を新

たにすることは、とても大切なことだと思います。無味乾燥なカードや目録を一枚一枚めくる仕事も大切ですが、実際に書庫に入ると本に対する親しみも一層ますのではないのでしょうか。たしかに管理上の問題もあるでしょうが、素人考えですが返本手続きさえきちんとすれば、学生の書庫立入りでかえって館員の手が省けるといふ面もある訳ですから。

図書：僕らは日頃本に埋れていますので、ついつい無感動に本を扱ってしまいますけど、そういうことはあるのかもしれないね。

上杉：そんな訳で私は新学期に時間をとって学生を引率して、図書館を見学させ、簡単なオリエンテーションをしましたが、とくに書庫に入った時は、日頃よく勉強している学生はとても興奮していました。

図書：静大の図書館には蔵書が少なくあまり利用価値がないと考えておられる方も多いと思いますが……。

上杉：私自身に限って言えば、残念ながら私が集めたもの以外には、専門分野の本はほとんどないというのが現状です。また静大の場合、図書館の蔵書といっても各研究室でバラバラに購入した本の寄木細工でしかないという側面も強い訳ですから、分野によっては非常に片寄った収書がなされ、えらく専門的な本が三冊も入っていたり、どこにでもなければならぬと思われる本がなかったり——もっともこれは私にも責任がある訳ですが——というのが現状です。しかし静大のような歴史の浅い大学で個々の専門分野の文献が少ないことをなげいてもはじまらないと思います。その意味で私としては図書館に情報センター的な役割を拡大してほしいと思っています。現にレファレンスの方々に大にお世話をおかけし、いろいろ資料のことで相談していただいたり、コピーを取り寄せていただいたり、相互貸借で本を借りていただいたりしています。日本では、どんな資料が刊行され

ているか、或はその資料がどこに所蔵されているかを知らせる体制が諸外国と比べ極めて不十分だといわれていますが、それでもそのような体制がない訳ではない訳ですから、このような情報収集活動にもっと力点を置いてほしいというのが私の希望です。

たしかに学生にとっては一般的な図書がすぐ手に入るということがどうしても必要な訳ですから、近年の学生用図書予算の大幅増は大変結構なことで、是非その一層の拡大を期待したいと思います。

図書：その他、図書館に御希望はございませんか。

上杉：ある先生が、「静大では体育館は八時、九時

まで煌々と照明がついているのに、図書館は五時すぎに明りが消えてしまう。これで学問の府といえるかねえ。」といった意味のことをおっしゃっておられました。全くその通りだと思います。夜通しとは言わないまでも——アメリカの多くの大学では夜の十二時ごろまで開館しているとか——九時か十時ぐらいまでは開館しておいてほしいと思いますねえ。職員定員の問題もあるようですが、基本的には私たち図書館利用者の声が実現されるに違いないと思っています。

(人文学部・外国史)

<担当：袴田・望月>

増築に伴う館内構成の変更について

念願だった増築が完成し、それに伴って事務室や書庫内資料が大幅に移動いたしました。事務室などの管理機能は4階に集中し、書庫部分では、和書を旧館に、洋書を新館にまとめた結果、各階の構成は下記のようにになりました(M階という呼称を廃止したので、旧M階は2階、旧2～4階は各々3～5階となります)。太字は新しく設けられた施設で、新施設の利用等については目下鋭意検討中ですので、追ってお知らせします。

設備では、新館に空調設備が入り、身障者用エレベーターと身障者用トイレ(5階)が新設されました。教官専用として、5階に3個の個室を

用意したほか、雑誌書庫に隣接して別に教官閲覧室1室を設けました。キャレルは新館・旧館とも各階に若干ずつ用意してあります。

5階開架閲覧室の東側に新書架を増設して開架図書はここにまとめ、従来旧2階にあった指定図書は開架閲覧室の西側に移してあります。旧農学部図書は書庫内本館図書に混排、旧教育学部浜松分校の図書は各細分類ごとに本館図書の先頭に配置しました。

4階事務フロア以外の各階への立入りは運用係で手続き願います。学生の利用方法は従来と変わりません。詳細は係におたずねください。

	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階
旧館	和書 400 自然科学 500 工学 600 産業 700 芸術 800 語学 900 文学 岩波文庫、岩波新書等 旧制静高蔵書	和書 000 総記 100 哲学 200 歴史 300 社会科学	和雑誌 教官閲覧室 自由閲覧室 演習室(2室) 印刷・製本室	閲覧用カード目録 参考図書 雑誌コーナー 閲覧課 運用係(入庫手続、貸出、返却) 参考調査係(レファレンス、 複写・学外資料利用申込)	開架閲覧室 開架図書 指定図書	
新館	洋書 400～900	洋書 000～300 漢籍	洋雑誌 新聞	各課長 整理課 総務係 整理係 受入係(図書資料購入手続、 新着雑誌の受渡し)	地方資料室 マイクロ資料室 特別資料室 個人閲覧室(3室) 館長室、部長室	視聴覚室 会議室

—— 最近の受贈図書から ——

所蔵目録関係

このリストは、最近（概ね1年以内）受贈により受入れた図書の中から、所蔵目録関係の主なものを、所蔵館名のABC順に配列したものです。所蔵館名、書名、刊年、請求記号の順に記載し、書名に館名が付されている場合は所蔵館名は省略した。＊印は現在整理中のもの。

同志社大学図書館「荒木英文学庫目録」昭和53 32 p (029.9/D 88) <荒木和一郎蔵書20,000冊のうち、明治末年までの英学関係資料264部331冊を収録>

同志社大学図書館「ケーリ文庫目録」昭和53 95 p (029.9/D 88) <ケーリ家三代にわたり収集した西洋人の日本研究とキリスト教伝道史に関する欧文文献949部約1,100冊と図版63点を収録>

「八戸市立図書館図書分類目録1」昭和53 142 p (029.2/H 11) <八戸旧南部家旧蔵書約15,000冊を収録>

「八戸市立図書館漢籍分類目録」昭和52 (029.2/H 11) <開館以来103年間に収集した漢籍491冊を収録>

「俳句文学館蔵書目録」昭和53 118 p (911.303/H 15) <図書1万冊、雑誌5万冊の蔵書のうち整理の完了した約6,000冊を収録。同文学館は昭和51年2月に竣工、52年5月から一般公開>

一橋大学経済研究所日本経済統計文献センター「統計資料マイクロフィルム目録 第1—2巻」昭和52—53 2冊 (330.59/H 77)

法政大学図書館「協調会文庫目録 和書の部」昭和52 554 p (029.6/H 91) <財団法人協調会旧蔵書5万冊のうち、和書14,565部、和雑誌424部を収録。同文庫の蔵書は、大正中期から戦前期にかけての社会、労働問題を中心に、政治・経済一般に及ぶ内外の専門書から成る>

金沢市立図書館「富田文庫目録」昭和52 41 p (029.9/Ka 48) <館屋如柳系統の俳諧書379点を収録>

「関西大学図書館蔵書目録 法律」昭和53 597 p ＊ <昭和47年4月1日現在の所蔵図書の中法律書7,000点を収録>

「国立国会図書館所蔵 国際連盟・国際連合刊行物資料目録1919—1976 第4巻」昭和53 640 p ＊ <わが国及び主要国で刊行された国際連盟・国際連合に関する図書、小冊子、雑誌論文約13,900タイトルを収録>

「国立国会図書館所蔵 児童図書目録1975」昭和52 (028.51/Ko 49) <昭和47年刊の「児童図書目録」(明治以降昭和43年末まで収録)に続く昭和44年から昭和50年末までに収集した図書12,645点を収録>

京都外国語大学附属図書館「ウィリアム・シェイクスピア—作品と参考文献—」昭和53 758 p ＊ <外国語による文献約3,000点及び雑誌の主要論文を収録>

「神戸市外国語大学所蔵 漢籍分類目録 叢書之部」昭和51 142 p ＊ <既刊の「四部之部」(900部6,000冊収録)に続く第2冊目で叢書30部を収録>

「長野県郷土資料総合目録」昭和52 556 p ＊ <長野県内の公共図書館19館が昭和48年1月1日現在で所蔵する郷土資料10,101点を収録>

「内閣文庫未刊史料細目 上」昭和52 262 p (029.3/N 28) <既刊の「蔵書目録」では内容検索の困難な未刊の雑誌記録類の内容細目を編修したもので、上巻には、文書集・地図集・編年史料・記録集・法令集・年表・雑編のたぐいを取めてある>

「成田図書館蔵書分類目録 仏教部」昭和52 699 p (180.3/N 52) <大正2年至昭和50年末に収集した仏教書目を約2,000部収録>

日本近代文学館「高見順文庫概要」昭和52 16 p (910.3/N 77) <同文学館初代理事長高見順旧蔵書の概要を記したもの。同文庫は原稿・草稿43,660枚、書簡4,400通、図書13,142冊、雑誌1,700部25,000冊等から成っている>

日本近代文学館「芥川龍之介文庫目録」昭和52 41 p ＊ <芥川家寄贈の和洋書1,103点2,631冊、及び原稿・書簡等を収録>

財団法人大佛次郎記念会「大佛次郎氏旧蔵パリ・コミュニケーション蔵書(洋書)目録」昭和52 iv, 27 p ＊ <大佛次郎旧蔵洋書約4,000点のうち、パリ・コミュニケーション関係の文献169種172点を収録。同記念会は本年5月から一般公開>

大谷大学図書館「悠然楼漢籍分類目録」昭和52 182 p (029.9/084) <大西行禮旧蔵東洋学関係漢籍850冊を収録>

「龍門文庫善本書目 其の一 古写本の部(-)」川瀬一馬編 昭和53 88 p ＊ <阪本龍門文庫は奈良～江戸時代の国史・国文、漢籍仏典に富む法人組織の図書館>

「東大寺図書館蔵書目録 洋装本之部」昭和52 313 p (029.8/To 17) <典籍・文書類の蔵書のうち、昭和51年末までに整理された一般洋装本図書を収録>

「東北大学所蔵 和漢書古典分類目録 和書中」昭和53 1,794 p (029.7/To 25) <創設より昭和40年度受入までの歴史、法制、経済、言語、文学、芸術、演劇を収録。和漢書古典の総合目録第4冊目>

「(東京大学法学部) 明治新聞雑誌文庫所蔵 新聞目録」昭和52 182 p (070.3/To 46) <昭和52年4月現在の所蔵資料1,856種(原紙、複製版、マイクロフィルム版等を含む)を収録。欠号年月日も明示。同文庫創立50周年を機会に上梓したもので、雑誌の部、関連資料・文献の部の続刊が予定されている>

東京大学東洋文化研究所「清野文庫分類目録」昭和53 90 p ＊ <清野謙次旧蔵書、考古学・人類学洋書750冊>

東京芸術大学「藏品目録 彫刻」昭和52 (708/To 46) <「藏品目録 絵画II」(昭和51年刊)に続く創立90周年記念出版の第2冊目>

「東京都立教育研究所向和教育資料センター所蔵図書等目録」昭和53 81 p <昭和49年3月開設以来昭和53年2月末までに収集した図書1,570点、雑誌新聞12種を収録>

東京都立中央図書館「合集収録翻訳文学索引1945～1975」昭和52 436 p (903.1/To 46) <昭和20年から昭和50年まで都立中央図書館で所蔵する約230種の合集に収録された2,400人の著者の翻訳作品約10,000点の索引>



■附属図書館委員会構成委員 (昭和53年度)

		附属図書館委員	
館長		渡辺 安夫	
分館長		井本 文夫	
人文学部		原 秀三郎	山本 義彦
教育学部		江草 研介	平野 毅
理学部		長谷川 圀彦	近田 文弘
工学部		泉沢 正郎	
農学部		桐生 司一郎	水野 卓
養育部		伊原 弘介	田村 貞雄
電子研		安藤 隆男	山口一六夫
大学院電子科学研		熊川 征司	岡本 尚道
法経短大		望月 昌吾 (オブザーバー)	
本部		事務局 長	
附属図書館		事務部長	

■附属図書館委員会報告

第1回 とき: 53. 5. 23 ところ: 会議室

(1) 昭和53年度指定図書購入費、同学生用図書購入費の各部局の負担額について試算額を検討の上これを承認した。

第2回 とき: 53. 6. 5 ところ: 会議室

(1) 昭和53年度図書館維持費予算について、種々審議の上原案どおり承認した。

第3回 とき: 53. 7. 17 ところ: 会議室

(1) 図書館の基本問題について前年度の審議経過をふまえて種々検討したが、今後充分審議をすることとした。

■増加図書統計 (昭和52年度)

() 内は昭和52年度末の累計

	本館			浜松分館		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
0 総記	1,124 (26,229)	291 (6,478)	1,415 (32,707)	112 (2,701)	6 (756)	118 (3,457)
1 哲学	800 (14,496)	522 (8,286)	1,322 (22,782)	86 (2,714)	19 (445)	105 (3,159)
2 歴史	1,391 (27,974)	334 (4,403)	1,725 (32,377)	15 (1,469)	1 (209)	16 (1,678)
3 社会	5,113 (73,193)	1,236 (16,638)	6,349 (89,831)	73 (2,982)	1 (410)	74 (3,392)
4 自然	2,470 (37,205)	2,335 (27,051)	4,805 (64,256)	826 (16,318)	1,092 (18,683)	1,918 (35,001)
5 工学	756 (12,561)	166 (1,795)	922 (14,356)	1,008 (22,698)	727 (14,827)	1,735 (37,525)
6 産業	1,046 (23,530)	175 (4,632)	1,221 (28,162)	7 (505)	4 (7)	11 (512)
7 芸術	699 (11,505)	125 (1,946)	824 (13,451)	26 (1,548)	4 (263)	30 (1,811)
8 語学	548 (10,654)	456 (6,270)	1,004 (16,924)	49 (2,627)	15 (2,057)	64 (4,684)
9 文学	1,454 (33,299)	840 (20,903)	2,294 (54,202)	47 (3,480)	1 (1,213)	48 (4,693)
計	15,401 (270,646)	6,480 (98,402)	21,881 (369,048)	2,249 (57,042)	1,870 (38,870)	4,119 (95,912)

■雑誌受入種類数 (昭和52年度)

		本館	浜松分館
総受入種類数		4,526	1,213
購 入	和 書	732	263
	洋 書	989	393
寄贈・交換	和 書	2,105	474
	洋 書	700	83

お知らせ (本館)

(1) 開館時間の延長

前期試験等のため、開館時間を延長します。

期間 9月6日(水)~30日(土)

時間 月~金 17:00~19:30

土 12:00~16:00

(2) 返却ボックスの設置

玄関前に図書の返却ボックスを新設しました。図書館閉館時に貸出図書を返却したい方は、備付の用紙に所要事項を書いて、このボックスに返却してください。館外貸出証は後日カウンターでお受取りください。但し、開館中の返却はカウンターで願います。

(3) 掲示板の設置

玄関前及び西玄関階段下の2カ所に掲示板を設置しました。延長開館や連絡事項等はこの掲示板でお知らせしますのでご覧ください。

(4) 事務連絡

イ 事務用ゼロックスの使用法が若干変わりました。運用係でキーカウンターをうけとり、ゼロックスに差込んでご使用ください。キーナンバーは必ず使用前・後に使用票に記入し、使用後はキーを運用係にお返し願います。

ロ 整理済図書の連絡通知は、従来物品請求書の1枚にその図書の請求記号を記入して、教官名または教室名宛の送付によっていましたが、本年度からは基本カードの複製を付して通知することにいたします。

■昭和53年度編集委員

山本 (人文学部)・村山 (教育学部)・前畑・鷹野・袴田・長南・畠山・望月 (図書館)

訃 報

本学附属図書館事務部長 佐藤信男氏は、昭和53年4月以来、国立静岡病院に入院加療中のところ、同年8月31日午前10時28分食道癌のため逝去されました。(享年52歳)ここに安らかな御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。